

■ 競技上の注意 ■

審判長 伊庭洋子

令和7年6月1日一部改定の日本卓球ルールを適用して実施します。

卓球競技は全てスポーツマンシップに則り、ルールを遵守し、立派なマナーのもとに、正々堂々と競技を行わなければなりません。

【競技種目】 男女ダブルス、男女シングルス
【競技形式】 全試合トーナメント方式。本大会では男女ダブルスは、全て5ゲームマッチ。男女シングルスは、ランキング決定戦前までは、5ゲームマッチ。ランキング決定戦以降は7ゲームマッチとする。

1. 卓球台、ボール、用具、服装等について

- ◎ 卓球台は日本卓球協会公認台を使用する。
- ◎ ボールは、「株式会社VICTAS、VP40+3スター」を使用する。
- ◎ ラケット本体を覆うラバーは、その摩擦特性、外見、色、構造、表面等の競技性能に、物理的、化学的その他の処理による変化、修正を与える事なしに、JTТАあるいはITTFに公認された状態で使用されなければならない。
なお、外国製ラケットでJTТАの刻印及びメーカーの商標、または指定業者名の略称とJTТАの連続刻印がないものを使用する場合、予め試合開始1時間前までに、審判長の許可（「外国製ラケット使用許可書」が必要）を受けること。
- ◎ ラバーは、ラケット本体よりも大きかったり、小さかったりしないこと。
- ◎ ゲーム中ラケットを誤って破損した場合、スペアラケットかプレー領域内で手渡されたラケットと交換し、直ちにプレーを再開すること。
- ◎ 競技服装（シャツ、ショーツ、スカート）はJTТАの公認マークの付いているものを着用すること。
- ◎ 同じ服装による対戦を避けるため、色、柄、の異なった2種類以上の服装を用意すること。
もし、似かよった服装でお互いが服装を代えることに同意しなかった場合は、主審がくじ（挙）で決める。
- ◎ 競技用シャツ（袖・襟を除く）、ショーツまたはスカートの主たる色は使用するボールの色と明らかに違う色でなければならない。
- ◎ リストバンド、サポーター、ヘアバンド、スパッツにつける広告は、メーカーの商標・ロゴは1ヶ所とし、12cm以下であること。但し、（公財）日本卓球協会公認用具指定業者の製品のみ認められる。
- ◎ コールエリアの設置について
・各選手（組）はコールエリアでボール選球（2球）と、対戦者（組）間のゲームシャツの色の確認を実施する。
※タイムテーブル20分前に、着用するシャツまたは、写真をコールエリアに持参してください。
- ◎ ラケットコントロールテストについて
ランダムにラケット検査を行い、ラケット本体を覆うラバーの厚さ、平坦性、有害な揮発性物質の存在な物質の存在などを含むすべての規定を守っているかどうかを見る。ラケットコントロールの検査に合格しなかったラケットは、当該の大会においては使用不可であり、そのラケットを所有していた競技者も。その時の状況に応じてペナルティが課せられる。
- ◎ シューズ底を拭う濡れ雑巾等は、プレー領域においての使用はできない。各ゲーム間にベンチ付近での使用を認める。

2. サービスについて

- ◎ サーバーは、フリーハンドの手のひらを開き、その上につかむことなく、自由に転がる状態でボールをのせ、静止させる。
- ◎ サーバーは、ボールをほぼ垂直に回転を与えることなく投げ上げるものとし、そのボールは、サーバーのフリーハンドの手のひらを離れてから少なくとも16cm以上の高さに達した後落下し、打球される前には何物にも触れることのないものとする。
- ◎ サービスを開始してから打球するまでの間、ボールは常にプレーイングサーフェスよりも高い位置で、かつエンドラインより後方になくなくてはならない。またこの間、サーバーまたはダブルスのパートナーの体の一部、または着用しているもので、ボールをレシーバーから隠してはならない。
- ◎ サーバーは、ボールが手のひらから離れたら、すぐにフリーアームとフリーハンドをボールと両方のネット支柱で形成される三角形の空間領域の外に出さなくてはならない。

3. ゼッケンについて

- ◎ ゼッケンは令和7年度の（公財）日本卓球協会公認のものを着用すること。

4. 促進ルールについて

- ◎ 両方の競技者または組のポイントスコアの合計が少なくとも18ポイント（9-9・10-8または8-10）に達した場合を除いて、ゲーム開始後10分を経過しても終了しない場合は促進ルールが適用される。また、それ以前でも双方の競技者または組の要請のあった時には、いつでも促進ルールが適用される。
- ◎ 促進ルールが適用された場合は、そのマッチの残りのゲームは促進ルールで行われる。

5. タイムアウト制について

- ◎ タイムアウトの要求は、ゲーム中のラリーとラリーの間にのみでき、その際に選手は手で「T」の字を作ってその意思を示し、1マッチにおいて1分以内の“タイムアウト”を1回要求することができる。

6. 抗議、アドバイスについて

- ◎ 主審または副審等による事実の判定に対し抗議することはできない。
- ◎ 個人戦において、競技者または組のそのマッチ開始前に主審に登録された一人のアドバイザーからのみアドバイスを受けることができる。
- ◎ ゲーム中におけるアドバイスは、それによって競技が遅れさえしなければ、ラリー中を除いていつでもアドバイスを受けることができる。違法にアドバイスをした場合、バッドマナーとして、退場を含めた罰則が科せられる。最初はイエローカードで警告、2回目はレッドカードで競技領域外に退場させられる。

7. バッドマナーの取り扱いについて

- ◎ 競技者またはアドバイザーが相手競技者に対し不当な影響を与え、観客に不快感を与え、ゲームの評判を落とすようなクセや態度を慎むこと。その行為とは、大声で叫び（叫びに近い声も禁止）、汚い言葉を使う、故意にボールを蹴ることや競技領域外に打って出す、卓球台やフェンスを乱暴に扱う行為及び無断でラケットを交換したり、競技役員の指示を無視する行為などが含まれる。
- ◎ ポイントが決定した後は、速やかに次のサービス体勢、あるいはレシーブ体勢をとり、みだりに時間を取るようなことなく、競技のスピードアップをはかること。直ちに行動に移さないときは、「スロープレー」としてバッドマナーとして対処する。
- ◎ バッドマナーに対して、最初はイエローカードによる警告がなされるが、2回目以降はイエローカードとレッドカードが同時に掲示され、相手競技者に得点（1点または2点）が与えられる。さらなる不正行為を続けた場合は、主審は直ちに競技を中断し、審判長に報告すること。

8. 横幕、応援旗の掲示について

- ◎ 応援用具（旗、のぼり、ボード）に記載されている内容は、参加しているチームまたは個人を応援するものに限る。なお、校旗、部旗等は自チームの試合が終了した後、速やかに撤去すること。
- ◎ 校旗、部旗は縦1.5m×横2m以内とし、校章またはシンボルマークは中央に入れ、縦か横表示の卓球部名が入っているもの。
- ◎ 縦幕は原則として許可しない。また前項の旗を縦に長くして掲示することはできない。

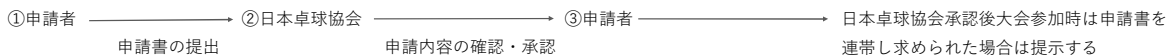
9. 一般的注意事項について

- ◎ 進行の都合で予定コート、開始時間を変更することがありますので、放送、掲示板に注意してください。
- ◎ カメラ、ビデオ撮影は「報道」として許可された者以外、撮影は禁止する。（選手自らのプレーを撮影するためのビデオカメラ等は1台のみ認められる。）
- ◎ 本大会は、㈱Labo Liveとの契約で、大会運営システムの協力および、全試合ライブ配信します。従いまして、同様のライブ配信は、報道登録の方であっても禁止します
- ◎ 競技場内での飲食は禁止されています。ただし、水分補給はふた付きのペットボトルのみ可とします。
- ◎ 本連盟主催の試合において、会場内および周辺での喫煙を全面禁止とする。このような行為に違反した場合、所属大学に連絡いたします。
- ◎ 盗難予防のために、試合中は自分の持ち物を知人に預けるなどして絶対に放置しないこと。万一被害にあっても一切の責任を負いません。
- ◎ 持ち込んだゴミ類は責任をもってお持ち帰りください。

■ ユニフォームについての注意事項 ■

2025年6月11日
公益財団法人日本卓球協会 用具委員会

【申請の流れ】



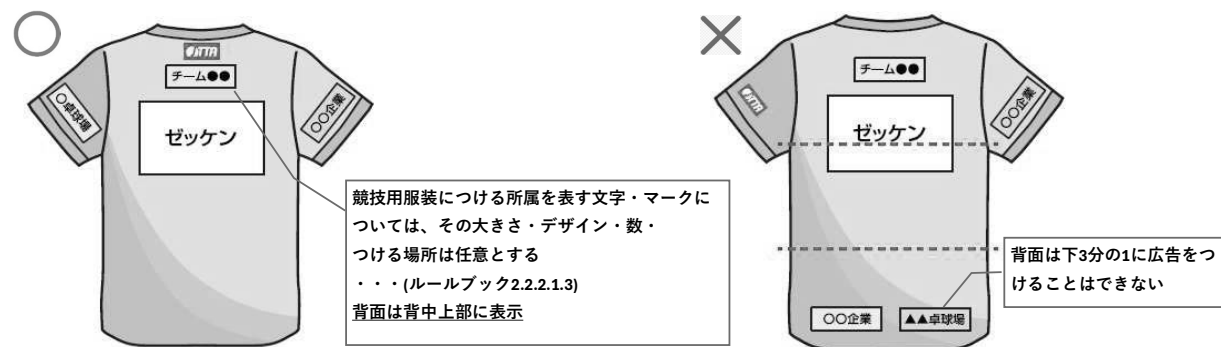
【ウェア前面について】

○シャツの前面・肩・側面には合計8ヶ所まで、合計面積600cm²以下、ただし前面は6ヶ所まで広告をつけることができる・・・(ルールブック2.2.5.8.2)
※白背景・白文字(白いロゴ・マーク等を含む)の広告・チーム名等を胸元に配置する場合は合算で210cm²を最大とする



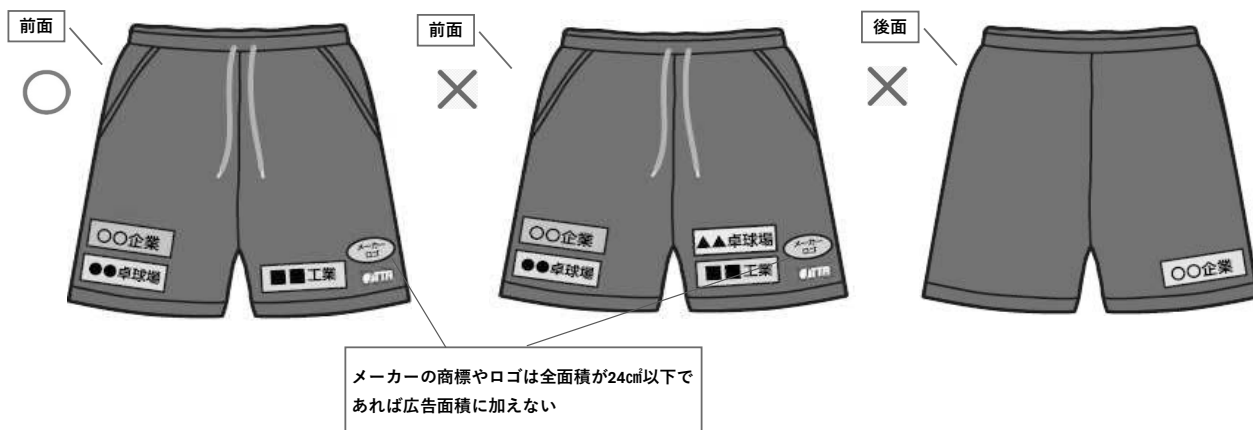
【ウェア背面について】

○背面は、3ヶ所、各面積の合計が400cm²以下の広告をつけることができる・・・(ルールブック2.2.5.8.3)
○競技者名・所属を背中に付ける場合には、襟のすぐ下(背中上部)に表示しなければならない・・・(ルールブック2.2.2.3)



【ショーツ・スカートについて】

○前面3ヶ所、各面積の合計120cm²以下とする・・・(ルールブック2.2.5.8.4)
※ショーツ・スカートは、前面側面のみ広告をつけることができる



■ 大会会場内における画像、映像および音声の撮影ルールについて ■

関西学生卓球連盟(以下、「当連盟」という)は、当連盟が主体となって運営する大会(以下、「対象大会」という)の競技開催施設(以下、「会場」という)での撮影行為および撮影した画像、映像または音声(以下、「収録物」という)について、以下の内容を定めます。

1. 撮影者について

※このルールが適用される撮影者は以下のとおりとする。

- (1) 当連盟が認めた報道機関(新聞社、通信社、大学新聞等を含む)
- (2) 対象大会出場者、ベンチコーチ、チームの監督・コーチ
- (3) チーム帯同者、チーム・企業広報担当者、チーム・企業が外部委託した撮影業者
- (4) その他当連盟が認めたもの

2. 対象大会の撮影行為について

- (1) 1.-(2)は、競技フロアでカメラ、ビデオカメラ、タブレット端末などの撮影機材で自身(自チーム)の競技(試合)・練習を撮影することができる。機材設置場所は、自身(自チーム)の競技(試合)が行われるコート脇のベンチに限定し、1コートにつき1台許可する。練習を撮影する場所は制限しないが、周囲の選手の迷惑にならないよう注意すること。周囲の選手や大会運営スタッフから指摘があった場合には速やかに従うこと。なお、ここで撮影した自身(自チーム)の競技(試合)・練習の映像は、記録、研究する目的にのみ使用を認める。
- (2) 取材申請済の1.-(1)および1.-(4)は競技フロアでの撮影を認める。ただし、競技エリア内(ここでは基本的にフェンスの内側を指す)に立ち入っての撮影は禁止する。撮影機材の一部(カメラレンズの先端など)がフェンスの延長線上より内側に入らないよう注意すること。
- (3) 1.-(3)が競技フロアから競技(試合)を撮影してはならない。ただし、当連盟が認めたもの等が競技フロアに入って撮影することがある。
- (4) 表彰式・閉会式内および終了後において、大会バックボードなどの前にて撮影をするときのみ競技フロアでの撮影を許可する場合がある。なお、撮影位置は当連盟の指示に従うこと。
- (5) 撮影時に大会運営および競技進行、周囲に迷惑がかからないようにすること。
例:フラッシュを使用しての撮影禁止、補助光の点灯および照明器具を使用しての撮影禁止。
白色を主とした衣服や白マスクの着用を控えるなど。
- (6) 撮影にあたり、当連盟の指示に従わない場合は撮影を禁止する場合がある。

3. 撮影した素材の使用について

- (1) 競技(試合)を撮影した収録物を、商業目的で利用することは禁止する。
- (2) 収録物の取り扱いについて、1.-(1)は別途案内している取材要項の内容に則る。
- (3) 競技(試合)・練習の映像および音声、映像から切り抜いた画像をインターネットや各種SNSで公開することは禁止する。
- (4) 観覧席から撮影した自身(自チーム)の競技(試合)の画像をインターネットや各種SNSで公開することは認める。ただし公開する画像は、肖像使用の許可が得られていない人が写っていないものに限る。
なお、肖像使用による個人間のトラブルが起きた場合において、当連盟は一切の責任を負わないものとする。
- (5) 1.-(1)が撮影した収録物を入手し、商業的に使用することはできない。
ただし、当連盟の許可があればその限りではない。
- (6) 1.-(2)、1.-(3)が撮影した収録物を1.-(1)に提供する場合、当連盟に確認をとること。